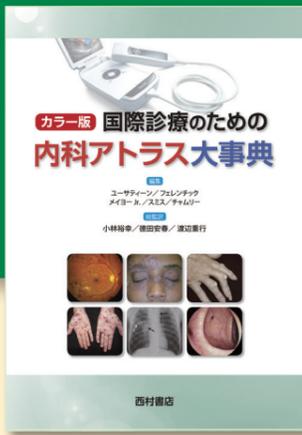


**カラー版 国際診療のための
内科アトラス大事典**



【編】 ユーサティーン／フェレンチック／メイヨー Jr.／スミス／チャムリー
 【総監訳】 小林裕幸／徳田安春／渡辺重行
 ●B5判・上製・1056頁 【定価】本体 **18,500** 円＋税 ISBN978-4-89013-489-2

● 西村書店 好評図書 ●

究極の免疫力は栄養。読み継がれる世界的名著！

ロス 医療 栄養科学 大事典
 健康と病気のしくみがわかる

【編】 ロス／カバレロ／カズンズ／タッカー／ジーグラー
 【総監訳】 稲垣暢也／中屋 豊 【監訳】 佐々木 敏／田中 清
 ●B5判・1368頁 ◆本体 **18,000** 円＋税

▶初版刊行から60年以上の歴史を誇る、アメリカ発、世界的な栄養学のバイブル！ ▶基礎から臨床応用までを網羅。
 ▶疾病の栄養と栄養管理に関する最新の概念と実際的な問題についての新しいトピックスも紹介。
 ▶190人以上の専門家が執筆。▶カラー図説収録。

カラー版 内科学

【総編集】 門脇 孝／永井良三
 【編集委員】 赤林 朗／大内耐義／黒川峰夫／小池和彦／辻 省次
 長瀬隆英／藤田敏郎／森屋恭爾／山本一彦
 ●B5判・2004頁 ◆本体 **14,000** 円＋税

▶最先端でハイレベルなところまで踏み込んだアカデミックな内容。
 ▶疾患の概念・病態生理から診断・治療まで、わかりやすくしっかり解説。
 ▶薬理作用などのメカニズムなどの図版も加え、理解に貢献。
 ▶ふんだんな図表、ビジュアルに訴えるレイアウト！
 ▶全国の大学・基幹病院の第一線の専門医が執筆！

ポケット判 はこちら ▶ **ポケット判 カラー 内科学**
 いつでも使える持ち運べる！ チーム医療のために！！
 ●B6判・2004頁 ◆本体 **4,900** 円＋税

糖尿病学

【編集】 門脇 孝／荒木栄一／稲垣暢也／植木浩二郎／羽田勝計／綿田裕孝
 ●B5判・オールカラー636頁 ◆本体 **12,000** 円＋税

糖尿病学の今がわかる決定版！糖尿病学領域における基礎と臨床、国内外のエビデンス、最新知見を網羅。オールカラーの図表をふんだんに盛り込んだ、目にも訴える超ビジュアルなレイアウト。糖尿病以外の領域の診療にも有用。

カラー版 国際診療のための小児科アトラス大事典
 内科アトラス大事典の **姉妹編**

【編】 ユーサティーン他 【総監訳】 五十嵐 隆
 【監訳】 伊藤秀一／岡 明／賀藤 均／清水俊明／三牧正和
 ●B5判・1088頁 ◆本体 **18,500** 円＋税

診断における画像の重要性をふまえ、豊富な症例と、そこから得られた鮮やかなカラー図版を多数収録。ポイントをおさえた記述で情報整理にも有用、鑑別疾患の記載も充実。小児医療を学ぶ人にも、教える人にも有益な1冊。

問診の和文・英文併記 スワルツ 身体診察法
 一病歴と検査—

米国のベストセラー！

【著】 M.H.スワルツ 【日本語版監修】 宮城征四郎／納 光弘
 ●B5判・664頁 ◆本体 **6,800** 円＋税

米国医学界における身体診察法の第一人者によるテキスト。テクノロジーに依存しない日式的アプローチを強調し、病歴聴取と診察の技術を各章ごとに配置。900点以上の症例写真、イラスト収録。

カラー版 消化器病学 基礎と臨床

【編集】 浅香正博／菅野健太郎／千葉 勉
 ●B5判・1560頁 ◆本体 **19,500** 円

最新の知識からなる消化器病学のスタンダード。消化器病学の「今」がわかる。消化器病学領域における基礎と臨床、国内外のエビデンス、最新知見を網羅。第一線で活躍する執筆陣約500名。

真の内科医になるための海図！！

我が国には画像と写真をふんだんに用いた本書のような内科の教科書は存在しない

**カラー版 国際診療のための
内科アトラス大事典**

2019年
1月発売

編 ユーサティーン／フェレンチック
 メイヨー Jr.／スミス／チャムリー

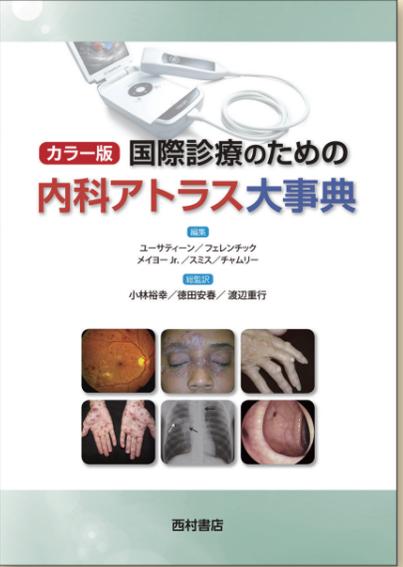
総監訳 小林裕幸 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・水戸協同病院 総合診療科 副センター長／教授
 徳田安春 群星沖縄臨床研修センター センター長
 渡辺重行 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・水戸協同病院 センター長／教授

診断力を高めるための最強のアトラス！

●B5判・上製・1056頁
 【定価】本体 **18,500** 円＋税 ISBN978-4-89013-489-2 C3047

- 本書の特徴**
- ▶約2,000点の美しい画像で学べる「見る内科学」！
 - ▶充実の鑑別診断！ **全科で使える すべての臨床医に役立つ**
 - ▶循環器、血液、消化器、腎・泌尿器・生殖器、筋骨格、感染症、内分泌、神経などの分野はもちろん、眼、耳、鼻、咽喉、口腔、女性、皮膚、足などの領域も網羅。さらに終末期医療、虐待や違法薬物の問題まで。特に皮膚科領域の記述は**圧巻（皮膚科医も必携）**！
 - ▶患者教育にも最適な1冊。
 - ▶超高齢および国際化の波で複雑化している現代医療のニーズに応えることができる、内科医にとって貴重なリソース。**総合診療と在宅医療**に役立つ

対象 ■ 病院図書室・開業医・研修医・各種医療従事者養成機関・公共図書館 必備！



西村書店 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-6 ☎03-3239-7671 Fax.03-3239-7622
 www.nishimurashoten.co.jp

取扱い書店 **西村書店** **ご注文 FAX 03-3239-7622**

カラー版 国際診療のための内科アトラス大事典 【定価】本体 **18,500** 円＋税

冊 注文します。 ISBN978-4-89013-489-2 C3047

お名前 _____ お電話番号 _____

ご住所 〒 _____

必要事項をご記入の上、切り取ってお近くの書店でお申し込みください。直接小社にご注文の場合は、代金引換にて送らせていただきます。
 ＊ご記入いただいた個人情報は、注文品の発送、新刊等の案内以外には使用いたしません。

西村書店 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-6 ☎03-3239-7671 Fax.03-3239-7622 www.nishimurashoten.co.jp

内科を英語であらわすと「medicine (メディスン)」と書く。また、メディスンには「医学」という意味もある。医学のうち、最も基本的で重要な部分が「内科」なのである。全人医療をベースにしながら成人での診断と治療を幅広く行うことができる診療科が、内科である。

臨床医学の父とされるウィリアム・オスラーの時代から、最も尊敬される医師像とは、診断困難なケースでの診断の追求を懸命に行う医師たちであった。

オスラーの遺志を引き継ぐ役割を果たすべく登場したのが総合内科医である。日本型の総合内科医は入院診療のみならず、救急外来と集中治療、そして外来もカバーできる守備範囲の広い医師集団である。これを、日本型ホスピタリストと私は呼んでいる。

近年は超高齢社会の到来によって、老年医学をカバーする内科の重要性がますます高くなってきた。さらには、インバウンド外国人の急増により医療の現場での国際化が急速に進んでいることから、これらの国際人の医療ニーズに対応できる内科医が医療現場でリスペクトを受けている。

そんななか、大変好評のアトラスシリーズの内科版が登場した。超高齢および国際化の波で複雑化している現代医療のニーズに応えることができるための内科医にとって貴重なリソースである。このアトラスは、内科のなかで最も基本的でコアな部分を、写真と図解で理解し身につけさせるための海図となるだろう。

内科医や内科・総合診療専門医、初期研修医だけでなく、臨床実習に入る前の医学生のみならず、メディスンをもう一度勉強したいと考えるベテラン医師の方々にも本書をぜひ読んでいただきたいと思う。

小林裕幸, 徳田安春, 渡辺重行

7 ドメスティックバイオレンス

症例
ボーフレンドの虐待から逃げ出した女性が、他の女性たちと、居住施設のある薬物依存治療プログラムのサークルに参加しているのが観察できる。



図7-1 虐待を繰り返すボーフレンドから逃げた女性の顔 (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)

解説
ドメスティックバイオレンス (intimate partner violence) は親密なパートナーによる身体的、感情的、または性的虐待と定義される。

身体的虐待
ドメスティックバイオレンスは、親密なパートナーによる身体的、感情的、または性的虐待と定義される。身体的虐待とは、意図的な身体的暴力の使用であり、殴る、蹴る、握るなどの行為を指す。



図7-2 図7-1と同一患者の2カ月後。顔心の腫れも残っている (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)

疫学
ドメスティックバイオレンスは、米国では約半分の女性の経験する。

毎年、米国の女性 (18歳以上) では、約490万のパートナーによる強姦や身体的暴行があり、男性では約290万の身体的暴力が起きている。

危険因子
ドメスティックバイオレンスの危険因子には、以下のものが含まれる。

図64-1 20歳の典型的な女性。A: 顔と右腕リンパ節腫大 (赤矢印)。右上葉の肺動脈 (白矢印) を認める胸部CT検査画像。B: 内臓が腫れ起して低吸収で辺縁が不規則な腫瘍リンパ節 (矢印) を認める胸部造影 CT 検査画像 (Reproduced with permission from Carlos Santiago Restrepo, MD.)



図63-3 48歳のアフリカ系アメリカ人男性で、鼻淵にサルコイドシスの診断結果を認める。鼻と頬部のサルコイドシスも認められる。肺病変も示している (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)



図63-7 肺骨髄サルコイドシスを疑った57歳の男児も病変を認める。A: 両手指関節の腫大の所見。B: 片手の拡大像。C: つま先の病変でサルコイドシスを疑った (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)



図63-6 皮膚と肺に進行サルコイドシスを認めるアフリカ系アメリカ人女性で、肺動脈に浸潤する肺骨髄サルコイドシスを疑っている。濾過性サルコイドシスに罹患しており、再発性肺動脈炎も疑っている (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)

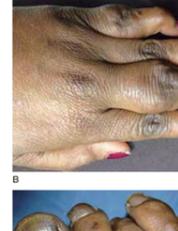


図63-7 肺骨髄サルコイドシスを疑った57歳の男児も病変を認める。A: 両手指関節の腫大の所見。B: 片手の拡大像。C: つま先の病変でサルコイドシスを疑った (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)

肺動脈炎は反応性に起こる。肺動脈炎は通常無菌性である。手足がおかされるのが最も多く、軟部組織の腫脹、関節痛、痲痺などを認める。サルコイドシス症例は通常、手足の小関節の多発関節炎を訴える。時折、歩行障害をきたす。慢性非遊走性進行性サルコイドシスを呈した骨サルコイドシスは、特にアヌン浸潤性皮膚サルコイドシス (lupus pemphigoid) に皮膚にも浸潤するの一般的である。

肺動脈炎
サルコイドシスが疑われた場合、特定臓器や機能に對する検査は非侵襲的検査から侵襲的検査に至るまで階層的に行う。

診断
肺動脈炎は反応性に起こる。肺動脈炎は通常無菌性である。手足がおかされるのが最も多く、軟部組織の腫脹、関節痛、痲痺などを認める。サルコイドシス症例は通常、手足の小関節の多発関節炎を訴える。時折、歩行障害をきたす。慢性非遊走性進行性サルコイドシスを呈した骨サルコイドシスは、特にアヌン浸潤性皮膚サルコイドシス (lupus pemphigoid) に皮膚にも浸潤するの一般的である。

鑑別診断
多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮剝離症、薬疹、アレルギー性皮膚炎、接触性皮膚炎、日光過敏症、扁平苔癬、天疱瘡、紅皮症、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症、皮膚性紅斑、血管炎、ループス-全身性病変、皮膚病変、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症

鑑別診断
多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮剝離症、薬疹、アレルギー性皮膚炎、接触性皮膚炎、日光過敏症、扁平苔癬、天疱瘡、紅皮症、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症

眼、耳、鼻、咽喉、口腔、女性、皮膚、足、また、終末期医療、虐待や違法薬物の問題まで網羅。特に皮膚科領域の記述は圧巻



図105-6 痛風を疑う (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)



図105-4 A: 52歳男性の痛風発作。急性の尿酸結核が指関節と痛風を伴う。B: 尿酸結核が浮腫を伴う。C: 尿酸結核が浮腫を伴う。D: 尿酸結核が浮腫を伴う。E: 尿酸結核が浮腫を伴う。F: 尿酸結核が浮腫を伴う。G: 尿酸結核が浮腫を伴う。H: 尿酸結核が浮腫を伴う。I: 尿酸結核が浮腫を伴う。J: 尿酸結核が浮腫を伴う。K: 尿酸結核が浮腫を伴う。L: 尿酸結核が浮腫を伴う。M: 尿酸結核が浮腫を伴う。N: 尿酸結核が浮腫を伴う。O: 尿酸結核が浮腫を伴う。P: 尿酸結核が浮腫を伴う。Q: 尿酸結核が浮腫を伴う。R: 尿酸結核が浮腫を伴う。S: 尿酸結核が浮腫を伴う。T: 尿酸結核が浮腫を伴う。U: 尿酸結核が浮腫を伴う。V: 尿酸結核が浮腫を伴う。W: 尿酸結核が浮腫を伴う。X: 尿酸結核が浮腫を伴う。Y: 尿酸結核が浮腫を伴う。Z: 尿酸結核が浮腫を伴う。

鑑別診断
多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮剝離症、薬疹、アレルギー性皮膚炎、接触性皮膚炎、日光過敏症、扁平苔癬、天疱瘡、紅皮症、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症



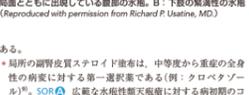
図102-7 皮膚の腫脹のある65歳男性に生じた初期の水疱性類天疱瘡。水疱は現在ダブリンでコントロールされている。A: 乾燥した皮膚に出現している初期の水疱。B: 下部の頬部の水疱 (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)



図102-6 痛風発作を生じた急性類天疱瘡。水疱性類天疱瘡の50%以上の症例で口腔内にも病変が出現する (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)



図102-5 下顎角と鼻の腫脹を生じた急性類天疱瘡 (Reproduced with permission from Richard P. Usatine, MD.)



鑑別診断
多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮剝離症、薬疹、アレルギー性皮膚炎、接触性皮膚炎、日光過敏症、扁平苔癬、天疱瘡、紅皮症、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症

鑑別診断
多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮剝離症、薬疹、アレルギー性皮膚炎、接触性皮膚炎、日光過敏症、扁平苔癬、天疱瘡、紅皮症、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症

鑑別診断
多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮剝離症、薬疹、アレルギー性皮膚炎、接触性皮膚炎、日光過敏症、扁平苔癬、天疱瘡、紅皮症、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症

鑑別診断
多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮剝離症、薬疹、アレルギー性皮膚炎、接触性皮膚炎、日光過敏症、扁平苔癬、天疱瘡、紅皮症、皮膚筋炎、強皮症、斑状強皮症

目次

第1部 画像やデジタル写真から学ぶ
1章 患者のケア、学習と教育の質を高めるアトラス
第2部 内科領域の問題
2章 医師-患者間の関係性
3章 家族計画
4章 終末期医療
5章 社会的正義
6章 グローバル・ヘルス
第3部 身体的虐待、性的虐待
7章 ドメスティックバイオレンス
8章 性的暴力
第4部 眼
9章 翼状片
10章 麦粒腫、霰粒腫
11章 強膜・結膜色素沈着
12章 角膜異物、角膜上皮剥離
13章 結膜炎
14章 強膜炎、上強膜炎
15章 ぶどう膜炎、虹彩炎
16章 緑内障
17章 糖尿病網膜症
18章 高血圧性網膜症
19章 乳頭浮腫
20章 加齢黄斑変性
21章 眼外傷-前房出血
22章 眼の発赤
第5部 耳、鼻、咽喉
1節 耳
23章 中耳炎-急性中耳炎、滲出性中耳炎
24章 外耳炎
25章 外耳道異物

26章 結節性耳輪皮膚軟骨炎、副耳
2節 鼻副鼻腔
27章 鼻茸
28章 副鼻腔炎
3節 口腔咽喉
29章 口角口唇炎
30章 口蓋隆起
31章 咽喉炎
32章 喉頭 (嚔声)
第6部 口腔
33章 黒毛舌
34章 地図状舌
35章 歯肉炎、歯周病
36章 歯肉増殖症
37章 アフタ性潰瘍
38章 白板症
39章 口腔咽頭癌
40章 成人のう蝕
第7部 循環器
41章 大動脈瘤
42章 心房細動
43章 ばち指
44章 心不全
45章 冠動脈疾患
46章 深部静脈血栓症
47章 細菌性心内膜炎
48章 高血圧
49章 心膜炎、心膜液
50章 末梢動脈疾患
51章 静脈不全
第8部 血液
52章 鉄欠乏性貧血
53章 ビタミンB12欠乏症

54章 鎌状赤血球症
第9部 呼吸器
55章 喘息、肺機能検査
56章 慢性閉塞性肺疾患
57章 肺癌
58章 胸水
59章 市中肺炎
60章 気胸
61章 肺血栓塞栓症
62章 肺線維症
63章 サルコイドシス
64章 結核
第10部 消化器
65章 Clostridium difficile 感染症
66章 大腸癌
67章 大腸ポリープ
68章 憩室炎
69章 胆石
70章 胃癌
71章 逆流性食道炎
72章 痔核
73章 虚血性大腸炎
74章 肝疾患
75章 急性肝炎
76章 消化性潰瘍
77章 炎症性腸疾患
第11部 腎・泌尿器・生殖器
78章 膀胱癌
79章 水腎症
80章 尿路結石症
81章 ネフローゼ症候群
82章 多発性嚢胞腎
83章 前立腺癌
84章 腎血管性高血圧
85章 腎細胞癌

86章 慢性腎臓病
87章 尿沈渣
第12部 女性
1節 炎症、頸管炎
88章 炎症の概要
89章 萎縮性膣炎
90章 細菌性膣症
91章 外陰腔カンジダ症
92章 トリコモナス膣炎
93章 クラミジア頸管炎
2節 乳房
94章 乳腺炎、乳房腫瘍
95章 乳癌
96章 乳房バジェット病
第13部 筋骨格、リウマチ
97章 関節炎の概要
98章 変形性関節症
99章 関節リウマチ
100章 乾癬性関節炎
101章 強直性脊椎炎
102章 腰背部痛
103章 腰部脊柱管狭窄症
104章 椎体骨折
105章 痛風
106章 肘頭滑液包炎
107章 鎖骨骨折
108章 橈骨遠位端骨折
109章 中足骨骨折
110章 股関節骨折
111章 膝関節
112章 デュビュイトラン病
113章 リウマチ性多発筋痛症、側頭動脈炎
第14部 皮膚
1節 痤瘡様
114章 尋常性痤瘡 (アクネ、ニキビ)
115章 酒さ
116章 偽性毛嚢炎、項部ケロイド痤瘡
117章 汗腺腫瘍
2節 細菌性
118章 膿痂疹
119章 毛嚢炎
120章 点状角質融解症
121章 紅色陰癬
122章 蜂窩織炎
123章 膿瘍
124章 壊死性筋膜炎
3節 ウイルス性
125章 水痘 (水疱瘡)
126章 帯状疱疹
127章 眼部帯状疱疹
128章 単純ヘルペス
129章 伝染性軟属腫
130章 尋常性疣贅
131章 扁平疣贅
132章 性器疣贅
133章 足底疣贅
4節 真菌
134章 真菌の概要
135章 カンジダ症
136章 体部白癬
137章 股部白癬
138章 足白癬
139章 癬菌
5節 寄生
140章 シラミ

141章 疥癬
142章 皮膚幼虫移行症
6節 皮膚炎、アレルギー性
143章 アトピー性皮膚炎
144章 接触性皮膚炎
145章 手湿疹
146章 貨幣状湿疹
147章 精神性皮膚疾患
148章 蕁麻疹、血管浮腫
7節 丘疹落屑性
149章 脂漏性皮膚炎
150章 乾癬
151章 ばら色皸癬疹
152章 扁平苔癬
153章 反応性関節炎
154章 紅皮症
8節 良性腫瘍
155章 懸垂線維腫 (軟性線維腫)
156章 脂漏性角化症
157章 脂腺過形成
158章 皮膚線維腫
159章 化膿性肉芽腫
9節 母斑
160章 良性母斑
161章 先天性母斑
162章 表皮母斑、脂腺母斑
163章 異形成性母斑
10節 前癌状態、早期癌
164章 光線角化症、ボーエン病
165章 角化棘細胞腫 (ケラトアカントーマ)
166章 悪性黒子
167章 皮膚癌
168章 基底細胞癌

169章 有棘細胞癌
170章 メラノーマ
12節 浸潤性・免疫性
171章 環状肉芽腫
172章 壊疽性膿皮症
173章 サルコイドシス
174章 皮膚T細胞性リンパ腫
13節 過敏症症候群
175章 多形紅斑、ステープンス-ジョンソン症候群、中毒性皮膚壊死症
176章 結節性紅斑
177章 血管炎
14節 結合組織疾患
178章 ループス-全身性病変、皮膚病変
179章 皮膚筋炎
180章 強皮症、斑状強皮症
15節 水疱性
181章 水疱症の概要
182章 水疱性類天疱瘡
183章 天疱瘡
184章 その他の水疱症
16節 髪と爪の状態
185章 円形脱毛症
186章 牽引性脱毛症、抜毛症
187章 癬性脱毛症
188章 爪の正常変異
189章 爪の色素沈着をきたす疾患
190章 趾の陥入爪
191章 爪真菌症
192章 爪囲炎
193章 爪乾癬
194章 爪下血腫
17節 色素の増加、光線性皮膚疾患
195章 肝斑
196章 白斑、色素の脱失
197章 光線過敏症
198章 温熱性紅斑
18節 血管性
199章 後天性血管腫・血管奇形
200章 遺伝性・先天性の血管腫・血管奇形
19節 その他の皮膚疾患
201章 薬疹
202章 ケロイド
203章 遺伝性皮膚疾患
204章 遠心性環状紅斑
第15部 足
205章 鶏眼、胼胝
206章 外反母趾
207章 槌趾
208章 虚血性潰瘍
209章 神経障害性潰瘍 (アルコール使用障害)
210章 メタムフェタミン (覚醒剤)
211章 コカイン
212章 AIDS、カボジ肉腫
213章 男性の尿道炎
214章 腸管の蠕虫・寄生虫
215章 ライム病
216章 髄膜炎
217章 骨髄炎
218章 梅毒
第16部 感染症
219章 糖尿病の概要
220章 黒色表皮腫
221章 糖尿病皮膚障害
第17部 内分泌
222章 リポイド類壊死
223章 脂質異常症、黄色腫
224章 肥満
225章 骨粗鬆症、骨減少
226章 甲状腺機能低下症
227章 甲状腺機能亢進症
228章 先端巨大症
229章 クッシング症候群
第18部 神経
230章 頭痛
231章 脳血管障害
232章 硬膜下血腫
233章 正常圧水頭症
234章 ベル麻痺
235章 神経線維腫症
第19部 違法薬物
236章 物質乱用障害
237章 タバコ嗜癖
238章 アルコール (アルコール使用障害)
239章 メタムフェタミン (覚醒剤)
240章 コカイン
241章 注射薬物使用
付録
A EBMの解釈
B 外用もしくは病変内へのステロイドの使い方
C ダーモスコピー